

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 香川県 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	三豊市立豊中中学校 全校生徒 284名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育・美術) ② 行事名 (全校集会) ③ その他 (図書委員会) (2) 地域における活動 ① イベント名 (人権スポーツ教室) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	事前(1回目) アンケートをとる。 ↓ 体育館や運動場開放でスポーツに親しむ。 オリンピック・パラリンピックについて学ぶ。(美術・体育) 図書委員会でオリパラ関連の本の紹介に取り組む。 事後(2回目) アンケートをとる。 プロスポーツ選手とスポーツ交流・共生社会について考える。
5 取組内容	1 事前オリンピック・パラリンピック教育アンケート 平成30年10月、全校生徒にアンケートを実施 1. 東京でオリンピックが開催されるが、それはいつか。 (年) 2. 前回、東京でオリンピックが開かれたのは、いつか。 (年) 3. 今回、東京で開かれるオリンピックで、新たに追加される競技を5つ答えよ。 ()()()()() 4. オリンピックが開催される意義を次の中から3つ選び、記号に○をつけよ。 ア. スポーツを通じて心身を鍛えること イ. スポーツを通じて体力を増すこと ウ. 勝つことを一番大切に考える エ. 世界の人々と交流することを大切に考える オ. 平和な世界を築くこと 5. オリンピックで、男女最年少の金メダリストはそれぞれ何歳か。 男 (歳) 女 (歳)



6. 昔、棒高跳びのポールに使われていたという植物は何か答えよ。

()

7. パラリンピックとは、どんな意味か。

()

8. パラリンピック独自の種目を3つ書け。

() () ()



2 具体的取り組み

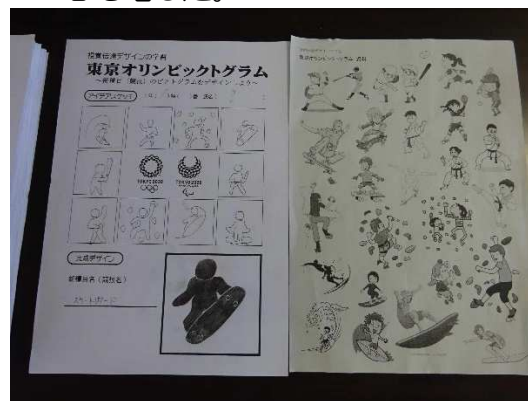
(1) 体育館や運動場開放でスポーツに親しむ。

以前より昼休みに運動場開放、体育館開放をして、盛んにサッカーなどをしていた。今回の補助事業でサッカーボールとバレーボールを購入して喜ばれた。多いときには50人以上が運動場や体育館でスポーツに親しんだ。下の写真は、購入したサッカーボールを手に感謝の記念撮影をしている所である。

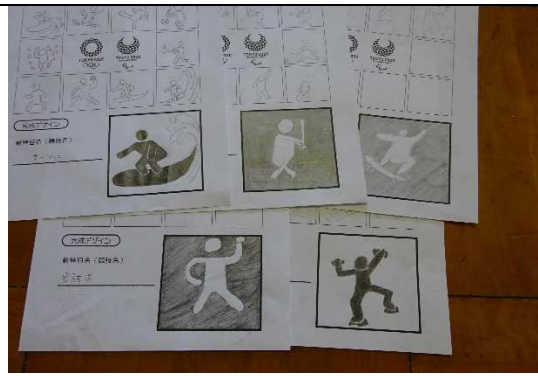


(2) オリンピック・パラリンピックについて学ぶ。(美術)

美術の授業で、東京オリンピックで新たに採用される種目のピクトグラムを作成した。新しい種目(野球・ソフトボール、空手、スケートボード、クライミング、サーフィン)について、知ることができる上に、東京オリンピック・パラリンピックに対する関心も増した。



▲ピクトグラム作成用ワークシート



▲生徒の作品

(3) オリンピック・パラリンピックについて学ぶ。(保健体育)

保健体育の授業で、オリンピック・パラリンピックについて調べ学習をした。オリンピックの始まりから、オリンピックの意義、メダリスト、新種目、パラリンピックの意義、種目などについて、推進事業で購入した書籍を使って自分たちで調べた。オリンピックに対する関心が高まった。



▲調べ学習をしているところ

(4) 図書委員会でオリパラ関連の本の紹介に取り組む。

オリンピック・パラリンピック教育推進校になったことを生徒に周知するために、全校集会で知らせるだけでなく、廊下掲示をするとともに、購入したオリンピック関連の図書の紹介も掲示した。多くの生徒が足を止め、さらに図書室で本を読む姿が見られた。確実に、オリンピック・パラリンピックに対する関心を高めることができた。



▲図書室でオリパラ関連本を見る生徒



▲廊下掲示を見る生徒

図書委員会が全校集会で「読書でビンゴ!」という取組を呼びかけた。様々なジャンルの本を読もうという取組で、その中でオリンピック・パラリンピックのクイズをして、関心を高めた。史上最年少の金メダリストの年齢や、昔の棒高跳びのポールは何でできていたかななどの質問に興味を示し、図書室に調べに来る生徒が増えた。



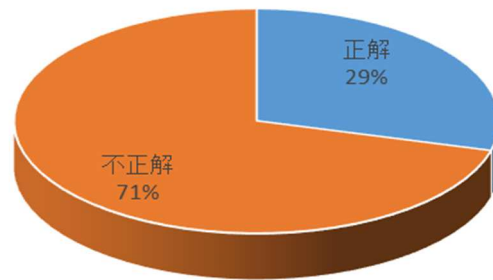
▲図書委員会が全校集会でオリパラ関連のクイズをしている所

- 3 事後（2回目）オリンピック・パラリンピック教育アンケート
様々な取り組みをした後で、同じ質問内容で2回目のアンケートを実施した。大きな変化があったものを中心に報告する。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開かれるということは、事前・事後どちらのアンケートとも、96%が正解だった。

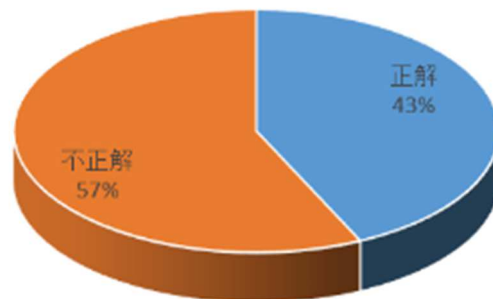
前回1964年に1回目の東京オリンピックが開かれたということは、取組の前は正答が29%、取組の後では正答が43%と大きく増えた。前回のオリンピックへの関心も増したことが分かる。

前回東京オリンピック1964年



▲1 回目のアンケート結果

前回東京オリンピック1964年



▲2 回目のアンケート結果

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックで採用される新種目については、多くの生徒が美術や体育の学習によって、知ることができた。1 年生については、1 回目のアンケート以前に美術の取組をしていたため、1 回目から知っていた人が多い。

オリンピック新種目を知っていた人

	1 年	2 年	3 年
野球/ソフトボール	82	12	24
空手	74	17	29
スケートボード	74	9	9
クライミング	76	29	22
サーフィン	79	21	16

96 名中

86 名中

88 名中

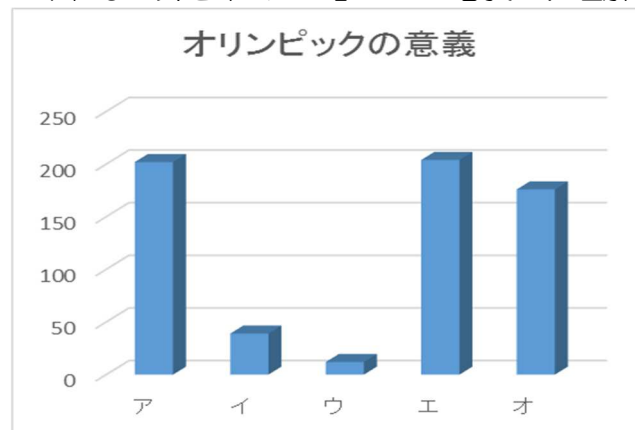
▲1 回目のアンケート結果

オリンピック新種目を知っていた人

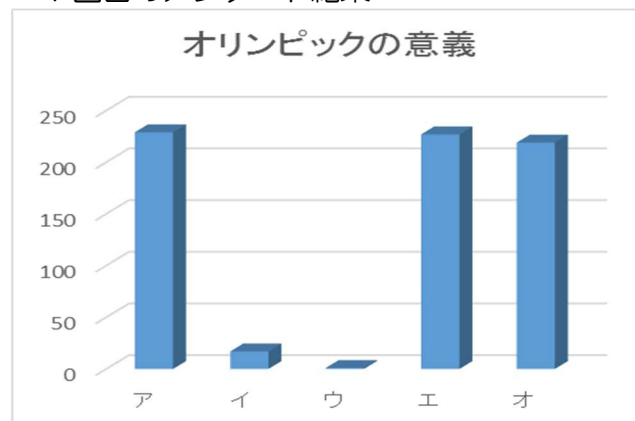
	1 年	2 年	3 年
野球/ソフトボール	88	55	26
空手	88	39	33
スケートボード	88	26	15
クライミング	83	42	29
サーフィン	86	43	22
	95 名中	85 名中	90 名中

▲2 回目のアンケート結果

オリンピックの意義については、取組の前は「イ. スポーツを通じて体力を増すこと」「ウ. 勝つことを一番大切に考える」が若干多かったが、取組後は減少した。「ア. スポーツを通じて心身を鍛えること」「エ. 世界の人々と交流することを大切に考える」「オ. 平和な世界を築くこと」という意義が、理解できている。



▲1 回目のアンケート結果



▲2 回目のアンケート結果

オリンピック最年少の金メダリストや昔の棒高跳びのポールについても、知っている生徒が大きく増した。ポールが竹であることは 88 名から 156 名と倍増した。これについては、図書委員会の取組による所が大きい。昼休みに図書室に来て、オリンピック・パラリンピック関連の本を見て、調べている生徒が多くいた。アンケートの問い以外の、オリンピック・パラリンピックに関することでもたくさん知る事につながった。

オリンピック最年少の金メダリスト

	正解
男 10 歳	5 名
女 13 歳	12 名

▲ 1 回目のアンケート結果

オリンピック最年少の金メダリスト

	正解
男 10 歳	92 名
女 13 歳	93 名

▲ 2 回目のアンケート結果

パラリンピックに関する質問に対しては、1 回目はかなり認識が低いものであった。特にパラリンピックの意味が「もう一つのオリンピック」であることは、2 名しか正答者がいなかった。しかし、取組の後には 107 名が正答した。パラリンピック独自の種目についても、1 回目は車いすバスケット以外はほとんど知らなかったが、取組後は、多くの種目名をかける生徒が増えた。確実に、パラリンピックに対する興味・関心も向上した。

パラリンピック独自の種目

270 名中

車いすバスケット	43 名
車いすテニス	15 名
車いすマラソン	9 名
車いすホッケー	2 名
ゴールボール	1 名
ブラインドサッカー	5 名
ボッチャ	1 名

▲ 1 回目のアンケート結果

パラリンピック独自の種目

270 名中

車いすバスケット	119 名
車いすテニス	61 名
ボッチャ	32 名
5 人制サッカー	23 名
7 人制サッカー	9 名
車いすフェンシング	11 名
ゴールボール	14 名
ブラインドサッカー	5 名
ウェルチエアラグビー	5 名
シッティングバレーボール	4 名

▲ 2 回目のアンケート結果

4 サッカー交流と人権スポーツ教室

高松法務局人権擁護部の主催する人権作文で、2年生が最優秀賞（カマタマーレ讃岐賞）を受賞した。その表彰と兼ねて、平成31年2月1日（金）に身近なプロスポーツ選手である、カマタマーレ讃岐の選手とサッカーで交流をしてスポーツへの意欲を高めた。また、東京オリンピック・パラリンピックに関連して、外国人と接することが増えるようになることから、外国人差別についてのパネルディスカッションを行った。偏見・差別心をなくする気持ちを高めた。



▲カマタマーレ讃岐選手と交流しているところ



▲外国人差別についてのパネルディスカッション

6 主な成果

- 2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。2回目のアンケートの感想にも「2020年の東京オリンピックがどうなるかととても楽しみです」「せっかく日本で開催されるので直に競技を見てみたい」という内容が多かった。
- アンケートの感想から、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学びが増したことがわかる。「たくさんオリンピック・パラリンピックのことを知る事ができて良かった」「東京は実質3回目のオリンピックだったのは驚いた（戦争で中止）」「心身と体力を高めるだけでなく、世界の人々と交流するという意義を知った」
- オリンピックやスポーツについて、さらに調べてみようという感想を書いている生徒も多く、スポーツ全体に対する興味・関心が高まった。
- 昼休みの体育館や運動場開放に、たくさんの生徒が教室から出てきて、友達と一緒にサッカーやバスケットボールをし、運動を楽しむ気持ちが増した。

	○ 人権スポーツ教室によって、プロスポーツ選手が学校に来て、実際に一緒に交流し、プロスポーツをより身近なものに感じる事ができた。 ○ 人権スポーツ教室によって、外国人への偏見や差別について考え、スポーツを通じた国際交流や共生社会についても考えを高めることができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	○ オリンピックだけを学ぶのではなく、オリンピックを通して、スポーツを楽しむ、スポーツ全体の意義や、国際交流・共生社会まで考えさせたいと考えた。 ○ スポーツを楽しむための時間（昼休みの体育館や運動場開放）やもの（サッカーボールやバレーボール）を整備した。 ○ 生徒も参加しての学びになるように、図書委員会の呼びかけや掲示、図書室の整備などを工夫した。
8主な課題等	○ 実際にオリンピック選手と交流したり、講演をしてもらったりしようと考えていたが、実際には地元出身の代表選手などは、試合日程などの都合で実現することはできなかった。 ○ 経費的にも、一流選手を呼ぶのは難しかった。
9来年度以降 の実施予定	来年度以降も、取組を継続して行きたいと考えている。オリンピックにむけて、香川県で事前合宿などをする国が出てくれば、その国のことを学習したり、実際に交流したりすることができるようになるのではないかと期待している。